

枝物による県北中山間地域の活性化と 産地維持に向けた取組

県北農林事務所常陸大宮地域農業改良普及センター

JA 常陸奥久慈枝物部会は、常陸大宮市を中心とした中山間地域で、耕作放棄地を活用し 250 を超える多品目の枝物生産に取り組んでいます。定年婦農者が中心ですが、近年は若手の生産者も加わり、年々部会員数は増加、栽培面積や販売額も増加しています。普及センターでは、産地の競争力を高めるため、基幹品目であるハナモモや販売額上位品目についての支援に取り組み、栽培面積の拡大や販売額の向上につながりました。また、今後の産地維持に向けた体制づくりにも取り組みました。

基幹品目ハナモモの作付拡大

販売額の 16% を占める基幹品目であるハナモモの作付を拡大するため、県単事業「いばらきの枝物トップランナー産地拡大事業」の部会向け説明会の開催や、新植・改植に向けた相談・支援により、事業活用を積極的に推進しました。その結果、ハナモモ作付面積の増加につながりました。

(ハナモモ作付面積) (R5)2,274 a → (R6)2,371 a



図1 ハナモモの促成中の様子



図2 水揚げ試験の様子
(上段：コニファー類、下段：オタフクナンテン)

販売額上位品目の販売額向上

販売額上位を占める主要 8 品目について、輸送中の鮮度・品質保持につながる取組みとして、出荷時の保水処理（水あて）の効果や水揚げ実証試験を行いました。試験結果を出荷時の改善につなげた結果、8 品目の合計販売額が 14% 増加し、部会の販売額向上にもつながりました。

(主要 8 品目の販売額)

(R5)7,465 万円 → (R6)8,513 万円

(部会販売額)

(R5)2.4 億円 → (R6)2.5 億円

産地維持に向けた体制づくり

現在、部会員の約 7 割が 60 代以上で、今後産地を安定的に維持するには、高齢化による生産者の離農や規模縮小に対応する体制づくりが必要です。そこで、昨年度から樹木の継承や今後の栽培計画など、部会員の意向調査に取り組みました。その結果、継承する側とされる側で意向に相違があること等が明らかになりました。把握できた部会員の意向は今後の具体的な体制づくりに活用していきます。

問：自分が栽培を継続できなくなったとき、部会員に畑を引き継ぎたいと思うか（回答上段）。部会員が栽培を継続できなくなったとき、部会員の畑を引き受けたいと思うか（回答下段）。

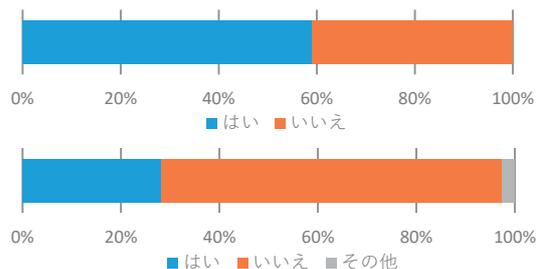


図3 樹木継承に関する設問と回答